

遊

女

恋

地

獄



怖

い

話

ほんとにあつた

実録!!

3

伊藤ゆみ

顔のない少年

ある日、友人の背後に

小さな男の子の霊を

見ちゃったの!!

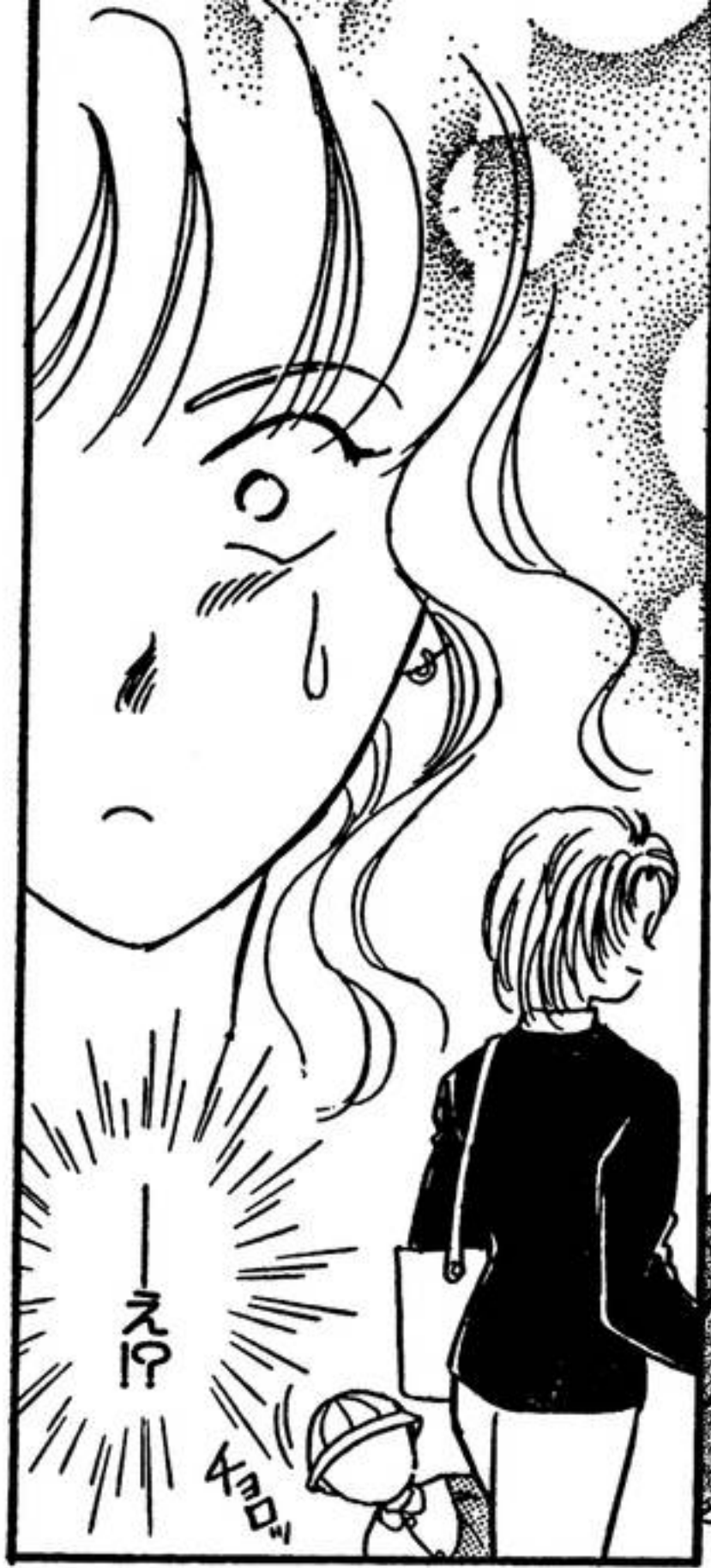
初登場!!

伊藤ゆみ



伊藤ゆみ先生はたまに霊が見えるんですって!!ある日のように友人のそばに

それはある春の
お彼岸の日
友人と出かけた
帰り道のことでした



園児がいる
——ような
気がする...



私(伊藤ゆみ)の場合
肉眼で霊を見ると
いうのはめったに
ありません

ただそこに
こんな人こんな動物
こんなものがあると
感じるのです

それは単純に
いいもの悪いもの
と感じるだけの
ときもあれば

年齢性別髪型
服装まではっきり
わかる時もあります

おにわ
けの
ち
わが
らん
の
ち
は
い
る

それは脳裏に
映像が浮かぶ
といった感じで

だから
たいがい……

気のせい
気のせい
気のせい

——をい

ざっく

は、は、は……

——ですます
ことにしてます

基本的に
二ーりー性格

また気のせいに
しようと思って
いるだろ

彼女は前沢洋子(仮名)
霊能者だったという
おばあさんの血を
引いたのかどうかは

定かではありま
せんがかなり
見える人です

言っでごらん

——せーのっ

——手僕
男の手



ピョウタニカンカー

黄色い
個子
青い
スモック
絵に描いた
ような
幼稚園児

どうしたの
二人共

あんたもさあ
いいかげん何でも
気のせいに
すんの
やめたら？

すみません

村山和美(仮名)

ううん
何でも
ない

そお？

あたしも気には
なってたんだけど
無邪気に遊んでる
だけって感じだし

霊能者でもない
あたし達がよけいな
こと言って怖がらせる
こともないよ

ほっとけば
すぐ離れるよ

そうだね

その時はただ
通りすがりに
拾っただけなの
だろうと思って
いました

—でも

ねエそれより
ちよっとお茶
してかない



あごめん
今日両親が
お墓捜し
行っって

あたし夕食の
仕度しなきゃ
いけないから

—え!?

何かが
ひっかかりました

お墓捜し…



その夜

TRRR!

はい
伊藤です

あー洋子



—ちよつと
やばいかも
しんない

え!?



実はゆみと
別れたあと
なんとなく

心霊の話に
なっちゃってさ

そーいえば
洋子って見える
人だったよね

…うん
まあ

…ねエ洋子

あたしの
周りに何か
いない?



実はあたし昔から
家の中で気配みたい
なのを感じることに
あるんだけど

それが今日に
かぎって外に
出ても気配が
抜けないのよ

こんなの初めて
だから気に
なって……

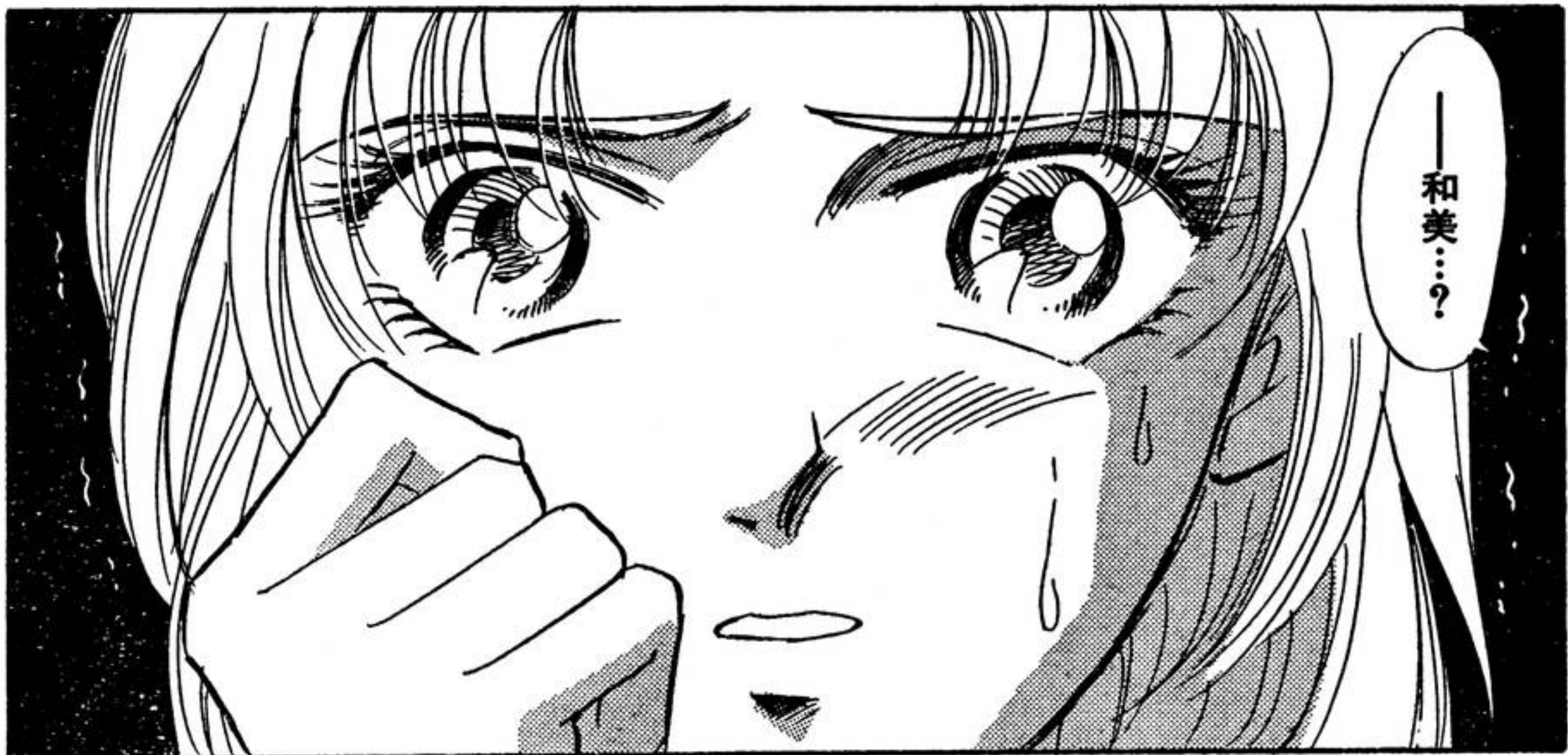


正直話して
いいものか迷った
そうですが

結局洋子は
少年の特徴を
話すことにしま
した

その気配と
関係あるかは
わからないから
必要以上に
怖がらないで
ほしいんだけど

青いスモックを
着た
男の子で……



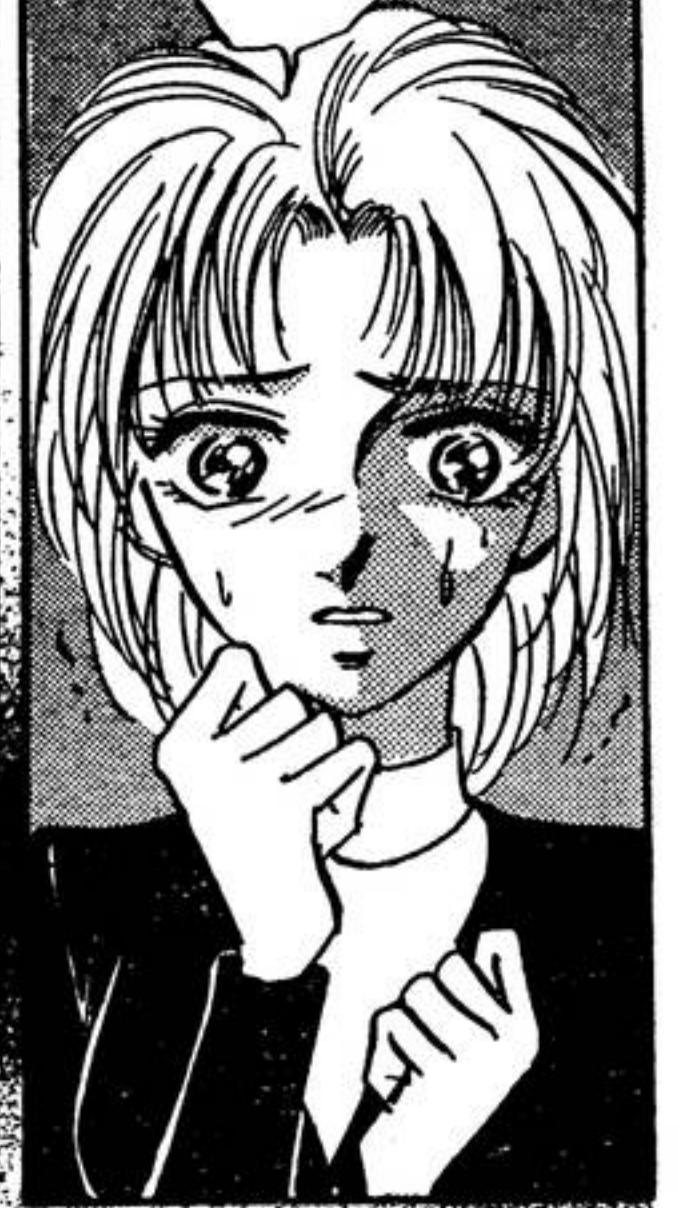
——和美……？

あ…あたし

その子
知ってる—

あたし子供の
頃から何度も
その子の夢を
見てる

えっ!?



いつも
「遊ぼう遊ぼう」
—って追っかけて
来るんだけど

どうしても
その子の顔が
見えなくて

怖くて怖くて
必死に逃げる
夢なの

—それを
あたし達が
見ちゃったって
わけ?

でもあたしは
そんないやな感じ
受けなかったよ

たぶん

—うん





でもしばらくは
気をつけた方が
いいと思う

気をつけるって
どういうふうによ？

ばばあちゃん
とうの昔に
死んちゃったし
なあ…

か
霊能者じゃ
ないし…

う…00

実に心強い
ご意見
ありがとうございます
ございました



そんな
ある晩

気持ちよく
眠っているよ

し
か
ー
う



自分でも
驚くほど
突然目が
覚めました

—え？

そしてその目こ
うだったのは

窓と
カーテンを
すり抜けて
入ってくる人間の手
でした



その二の腕ぐらい
まで入ってきた時

はい？

それは白く細い
女性の手で妙に

生々しいもの
でした

ま…ま…まずい
このままでは
顔を見て
しまふ…

だって
この時はもろに
肉眼で見ちゃった
んだもん

と思った私は

よしこれは
夢だ

そうだ
そういうことに
しよう

たのしい
性格なんだよ

あーやれやれ

そしてそのまま
見なかったことに
決めて寝返りを
うった瞬間

びん

か……
金縛り……

ちつくしよー
ざっけんなよー

とにかく
どこか一か所
でも動けば

夢じゃないと
主張してん
のか……

動けば……

かばっ

うおーう
生きた人間
なめんじゃねえ!!

動いたー!!

—あの
少年でした

そして
さっきの

白い手は
消えていたの
ですが

いっやいっや

いっや



なんじゃ
こりゃあ~~~~!!

それは少年とは
異質のとて
いやな感じの
ものたちで

中には頭痛や
吐き気を
感じるものも
ありました



はい
前沢です



一方洋子の
方でも

TRRR..



一瞬いたすら
電話かと思った
そうですが

鳥肌が立つ
ような恐怖を
感じたそうです



どうしたの
洋子？

うん変な
電話が…

電話？

電話の音
なんて聞こえ
なかったわよ

聞きまちがい
じゃないの？

同じ居間に
いながら
誰も

電話のコールを
聞いていなかった
そうです



—で
どう思う？



うんー
あの子を
悪い方へ

引っぱろうと
してるような
感じがする

その後も少年と
彼の後ろのいやな
お客さん達は

しばしば私達の
前に現れましたが

素人の私達に
どうにかできる
ものでもないの

とりあえず無視
して嵐が過ぎる
のを待つことに
しました

—やっぱり?
なんか悪意
感じるもんなあ

すっげー
後ろ向きだと
他に方法を
知らない

そんな中当時
仲間内で作っていた
同人誌の編集の
ため

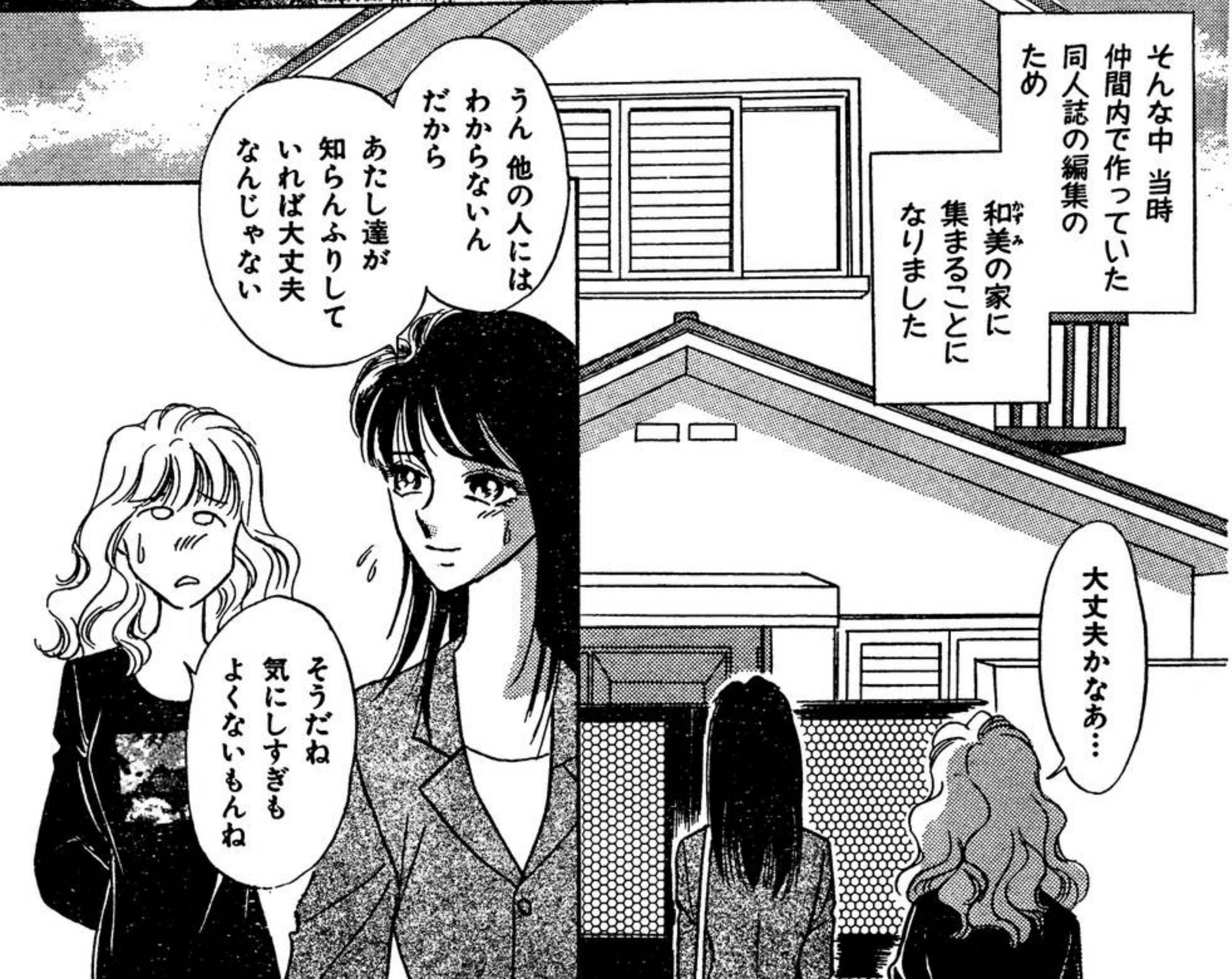
和美の家に
集まること
になりました

うん他の人には
わからないん
だから

あたし達が
知らんふりして
いれば大丈夫
なんじゃない

大丈夫かなあ…

そうだね
気にしすぎも
よくないもんね



と、ポー

いらっしやい
もうみんな
来てるよ

これ
おみやげ

ありがとう

お茶入れてく
から

先に二階に
上ってて

うん
おじやまします



こ...ここを
登るんかい!?

とにかく
怖かったです
明かりが入っているのに
暗く感じました

後で聞いた話
ですが和美も
和美の家族も
この階段が怖かった
そうです

おもわす
怖すぎたの

